

# 環境教育受け入れを強化

# 「宣言」で達成目標明確化

古紙の中からリサイクルできないビニールなどを取り除く作業を体験する児童ら



2021年6月に創業70周年を迎えた山拾村上商店

（釧路町国誓2、村上祐二社長）は、創業以来古紙と鉄のリサイクルを生業とし釧路地域の資源循環を担ってきた。SDGsには20年から取り組み、昨年から社員の声を受けて本格的に目標を明確にして達成を目指しており、11月26日には自社の企業活動を17の目標に照らし合わせて達成に向けた取り組みをまとめて「SDGs宣言」を行った。

## 「ECCO」解体 推進

同社の事業内容は資源リサイクルや廃棄物処理、解体工事に大別される。環境やリサイクルに対する意識が高まる中、廃棄物のリサイクルにも取り組み、木く

## 村上商店のSDGsへの取り組み

SDGs	村上商店の活動方針
3 健全な働き場	社員の健康なくして社業の発展なし
4 質の高い教育	環境教育の普及啓もう 必要な資格取得の制度
8 働きがい	社員のモチベーションと業績
9 産業とインフラ	廃棄物のリサイクル率向上
11 持続可能な都市	資源物、廃棄物のリサイクルと 適正処理
12 持続可能な消費と生産	再生可能エネルギーの製造
13 気候変動	海洋ごみの再資源化
5 ジェンダー平等	女性が働きやすい環境を整える
10 人や国の不平等をなくそう	雇用や労働形態
17 パートナーシップ	関係諸団体との連携

## 山拾村上商店

燃料チップ製造や、廃プラスチックを原料とした固形燃料（RPF）を製造し石炭の代替エネルギーとして、新たな資源循環に取り組んでいる。解体工事部門は、今後の建物取り壊し需要を見越したもので、解体

から廃棄物処理までのワンストップサービスを展開する環境負荷の少ない「ECCO解体」を進める。「鳥取リサイクルセンター」（鳥取南5）ではRPFなどを製造している。SDGs宣言では、17目標のうち13の達成を目指す。取り組みは大きく①安心・安全な職場環境づくり

②循環型社会・低炭素社会

への貢献③地域社会への貢献の三つ。①では健康経営を推進し、年齢・性別・勤務年数に関わらず、安心して働ける職場環境づくりを努め、社員の幸福を追求していく。②は事業活動を通して地域の環境保全に寄与し、リサイクル率の向上や再生可能エネルギーの導入拡大にも積極に取り組む。③は子供たちの社会科見学やボランティア活動を積極的に受け入れ、リサイクルに対する理解を深める活動を通して地域・社会に貢献する。地元の雇用推進にも取り組む。

村上社長は中でも「職業を通して社会の奉仕」を一番に考え、特に「質の高い教育をみんなに」「人や国の不平等をなくそう」の目標に力を入れる。

地域貢献としては、釧路市内の小学生の環境教育に2015年から取り組んでいる。昨年12月9、10日にはSDGs授業の一環で「ごみのリサイクルについて学ぶ鳥取西小学校4年児童75人を受け入れた。児童は工場内で古紙のリサイクルや燃料になるまでの課程を見学し、古紙の選別を体験した。また、昨年10月には釧路市立興津小学校の4年生30人、釧路町立遠矢小学校と富原小学校の6年生6人の

## 見て触って体験

職業体験学習を受け入れて

村上社長は「児童が環境問題や資源リサイクルについて教科書で学ぶだけではなく、見て、触って体験してもらいたい。地域の子供たちのための会社でありたい」とし、「小学生が環境問題を学ぶ授業『ごみのゆくえ』がSDGsを学ぶ場となってきた」と語る。今後、敷地内に研修用のスペースを設け、机を置く考えもあるといい、各教育機関に周知し、受け入れ拡充を図る。また、障害者雇用では、障害者が週に3〜4回、1日3人ずつ来てOA機器を手作業で素材ごとに分別解体しリサイクルのための選別作業を行っている。

村上社長は「企業の在り方は変わってきており、社会への奉仕が望まれている。SDGsに取り組むことで、会社を運営する中で、の気付きにもつながる。企業はプラス（利）益のことばかり考えていると継続できない」と話す。「地域から必要とされる企業として、SDGsの目標達成に向け会社全体で取り組んでいく」と力を込めた。（小西靖）



SDGsのロゴが入った産業廃棄物などを運ぶ大型トラック